

「教育臨床総合研究 6 2007研究」

## 基礎体験活動における学生の学びの変容について

## The Modifications of Self-Evaluation concerning Learning Outcomes in Basic Experience Area

嘉 賀 收 司\*

Shuji KAGA

山 中 慎 嗣\*

Shinji YAMANAKA

小 川 巖\*\*

Iwao OGAWA

齋 藤 英 明\*

Hideaki SAITO

秦 光 司\*

Koji HATA

## I 仮説

教育学部の新カリキュラムになって3年経過する。3年生は基礎体験学修について情報を持たずに入学したこともあり、1,000時間体験学修特に基礎体験学修については入学当初から違和感を持っている学生も少なからずいた。しかし、3年間基礎体験学修の良さに触れるにつれ、違和感を持つ学生も少なくなっているだろうと考える。そこで、以下のような仮説を立てた。

学生は、学年が進み基礎体験学修を積み重ねていくことで、学年に応じて活動のよさを感じたり、意義を学んだりするようになる。

この仮説の検証においては、新カリキュラム導入年度の学生であり、3年を経過した平成18年度入学生（以下04生）の意識の動向をこれまでのアンケート集計結果から考察してみる。

## 1. アンケートの集計から（04生について）

(1) ほぼ同じ内容のアンケートを、平成18年2月（1・2年生交流会）と平成18年12月（応用期セミナー）の2回行った。その際実施したアンケート項目については、資料1である。

（2回の共通部分）

(2) 下のような形式でアンケートを行い、集計においては回答欄1・2（以後1・2評価）と、回答欄4・5（以後4・5評価）の2つに分け、傾向を見ることとした。

なお、今回は顕著な学生の変容を明確にするために、回答欄3（3評価）については分析

\*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

\*\*島根大学教育学部附属教育支援センター長（心理・発達臨床講座）

に加えていない。

設 問	とてもよくできた	よくできた	どちらともいえない	あまりできなかった	全くできなかった
①子ども一人ひとりに目配りができ、積極的にかかわること	5	4	3	2	1
②子どもの発達段階の違いに応じてかわること	5	4	3	2	1
③子どものしぐさや表情、言葉などから気持ちや感情を理解し行動すること	5	4	3	2	1

アンケートに回答した学生の割合 (%) で、学生の意識や学びの状況を捉えたものが表1である。

この表の中で1・2評価と4・5評価それぞれの場合において、平成18年2月に比べて、12月の割合が減っている場合に数字の前に▲をつけて増減を示した。

表1 基礎体験活動に関するアンケート集計結果 (04生 平成18年2月、12月)

No.		1・2評価 (%)			4・5評価 (%)		
		H18.12	H18.2	差	H18.12	H18.2	差
1	I 基礎体験の取り組み状況	23.9	30.8	▲ 6.9	58.9	52.8	6.1
2	II 有意義感	2.8	16.5	▲13.7	7.9	58.3	20.7
3	III - 子ども理解①	8.4	11.9	▲ 3.5	66.1	59.3	6.8
4	III - 子ども理解②	8.3	19.2	▲10.9	64.5	48.9	15.6
5	III - 子ども理解③	11.1	12.5	▲ 1.4	57.3	51.1	6.2
6	III - 人間関係力①	19.5	33.5	▲ 14	48.3	38.4	9.9
7	III - 人間関係力②	12.3	30.7	▲18.4	50.6	38.8	11.8
8	III - 人間関係力③	7.2	7.1	0.1	58.9	57.7	1.2
9	III - 社会の一員としての自覚①	1.7	1.6	0.1	86.1	84.6	1.5
10	III - 社会の一員としての自覚②	10.6	7.1	3.5	65.6	69.7	▲ 4.1
11	III - 企画力①	30.6	34.1	▲ 3.5	40	38.4	1.6
12	III - 企画力②	23.9	27.4	▲ 3.5	44.5	35.7	8.8
13	III - 指導力①	7.3	14.8	▲ 7.5	59.5	47.8	11.7
14	III - 指導力②	25.6	31.9	▲ 6.3	43.8	34.6	9.2
15	III - 学校理解①	40.8	25.8	15	60.6	27.5	33.1
16	III - 学校理解②	14.4	12.1	2.3	65	46.7	18.3

### (3) 集計結果の全体的な傾向

- 1) No.1 からNo.16までの質問項目における15項目について、4・5評価の割合が増えている。さらに、10パーセント以上の増加が6項目についてみられる。(最大はNo.15学校理解①の

33.1%である)

- 2) No.1 からNo.16までの質問項目における11項目について、1・2評価の割合が減っている。さらに、10パーセント以上の減少が3項目についてみられる。(最大はNo.7 人間関係力②の18.4%である)
- 3) 社会の一員としての自覚①②の項目においては、2月の時点よりも1・2評価が若干だが上がっている。さらに他の項目に比べると学生の評価の変容の幅が小さい。
- 4) 企画力①②、指導力②において、4・5評価の割合が他の項目に比べると小さく、40%程度である。
- 5) アンケート集計表の項目No.15において、4・5評価が33.1%増えているが1・2評価も15%増えていることに表れている。実習 Semester において、公立小中学校での活動(学生の60%)が多かったため、学校理解の伸びが顕著である。ただ、実習 Semester で学校に行かなかった学生も多かったため、学校理解ができていないと自己評価している学生も多いと思われる。
- 6) No.11・12の企画力、No.13・14の指導力の項目において4・5評価の学生が増え1・2評価の学生が減っている。これは社会教育施設での活動を中心にいろいろな基礎体験活動の中で、3年生という立場上、いろいろな活動の中心的な立場になり後輩をまとめたり、企画に関わったりするという機会も増えたためであると思われる。

## 2. 具体的な分析

項目No.2「あなたは基礎体験活動をどのように感じていますか「有意義かどうか」(以下有意義感とする)について、アンケート結果では、4・5評価では20.7%増え、1・2評価では13.7%減っている。

この項目について、平成18年2月に4・5評価をしていた学生は12月でも4・5評価である。そこで2月時点で1・2評価をしていた学生が12月では4・5評価をしたと予想される。基礎体験活動をどう捉えるかは学生の取り組む姿勢や学びに大きな影響を与える。そこで、この項目を体験の観点から分析を行うこととした。

なお、今回アンケートの対象となった平成18年2月から12月までの10ヶ月間で、04生がカリキュラムとして体験した活動は以下の3つである。

- ① 教育実習Ⅲ(1週間)・Ⅳ(4週間)・Ⅴ(1週間)
- ② 実習 Semester での学外体験活動
- ③ 学生自身が選択し活動をした基礎体験活動

そこで、①～③の関連を踏まえて分析していきたい。

### (1) 1・2評価から4・5評価となった学生について

#### 1) 対象学生

平成18年2月時点で、基礎体験活動について1・2評価をしていたが、12月の時点では自己評価の観点が上がり幅2以上で4・5評価をした学生を対象とした。

上記の基準にあてはまる対象学生は26名であり、専攻ごとの人数は次のようになり、専攻ごとの偏りは見られない。

初等教育 6 名、言語文化教育 6 名、共生社会教育 4 名、数理基礎教育 2 名、芸術表現教育 2 名、健康・スポーツ教育 2 名、心理・発達臨床 2 名、自然環境教育 1 名、人間生活環境教育 1 名

2) 体験時間の観点から

表 2 基礎体験活動時間数 (対象学生および04生全体)

26人平均活動時間 (時間)	04生全体平均活動時間 (時間)
435.8	483.3

表 3 実習セメスターの活動時間 (抽出学生および04生全体)

実習セメスター活動時間	人数 (人)	26人平均活動時間 (時間)	04生全体平均活動時間 (時間)
50時間以下	19	45.8	42.7
50時間～100時間	2		
100時間以上	5		

以上のことから、26名の基礎体験活動の通算時間は全体平均の通算活動時間よりもやや低い程度で活動してきている。実習セメスターにおいてはやや高く、より積極的に活動したということが分かる。

3) 基礎体験活動のどう捉えているのかアンケートの記述から

アンケートの中で、次のような項目 (No.2) について学生の考えを聞いた。

II あなたは基礎体験活動をどのように感じていますか。当てはまる内容を1つ選び、番号に○をつけましょう。

- ① 有意義だと思わない
- ② あまり有意義だと思わない
- ③ よく分からない
- ④ 有意義だと思う
- ⑤ とても有意義だと思う

●その理由

2回のアンケートのこの項目 (No.2) についての26名の結果を一覧に記したのが資料2である。この記述を一人ひとり読み取っていくと次のようなことが分かる。

- ① 長期間にわたり、継続している体験活動から、活動自体の良さや意義を見出してきている。
- ② 平成18年度後期から始まった実習セメスターにおいて、公立学校における体験活動を通して、教育実習とは違う新たな学校理解をすることが、実習セメスターでの学外体験活動の良さにつながっている。
- ③ 自分の専門性を生かせる体験活動に関わることで、自分の専攻で学んでいることを活か

せたり、改めて専攻の面白さを再認識したり理解が深まったりすることで、体験の良さを感じている。

4) 26名の学生が有意義であると挙げた活動とその理由の記述から

アンケートで、次のような質問を行い、学生自身が記述した有意義だと思う活動から、傾向を考えた。

IV これまでに行った基礎体験活動の中で、自分にとって特に有意義だった（である）活動にはどんな活動がありますか。主な活動とその理由を挙げましょう。（3つ以内）

◎活動名（ ）

○その理由

26名の全員の学生の回答については、資料3である。

平成18年12月時点での記述から、特に次のことが読み取れる。

1つ目として、3年生になってより専門的な内容を学内の授業や教育実習等で学ぶことが、実際の学校等の体験場面での学びや気付きにつながりがあることがうかがわれる。

2つ目として、教育実習Ⅳの前後で学校教育や授業研究に対してより意識が高まっているところで、実習セメスター中に、自ら活動を選択して公立小中学校で活動を行うことで、これまでより大きな学びがあったことがうかがわれる。特にこれは実習セメスター中にじっくりと公立小中学校で体験を積んだ学生全般に言えることである。

学生にとって、1日中継続的に学習支援という形で学級に入り、深く子どもを見つめたり理解しようとしたり、職員室で先生方と話をしたりできた。このことは、これまで外側からの学校理解であったことが、内側から学校理解ができたことでもあり、学生にとって体験の意義が大きかったと捉えることができる。

また、受け入れ先の学校の先生方から「学生が来てくれて、学校が元気になった」「普段手がかかる子どもたちにかかわってもらい、子どもも教師も喜んでいる」などの感謝の声も、学生自身役に立ったという喜びを味わうことができ、さらに体験の良さを深く感じるようになったと思われる。

5) 1・2評価から4・5評価となった学生の変容について

3年生になるまでも基礎体験活動に取り組んでいる学生は多かったが、教育実習の中で子どもとかかわったり授業づくりに取り組んだりすることで、子どもも理解や学校理解等で新たな気付きや学びが生まれて、教育実習後の基礎体験活動への課題へとつながっていた。また、教育実習前の実習セメスターでの学外基礎体験が教育実習に向けての子どもとのかわりや授業づくりなどにつながっている学生もいた。

つまり、基礎体験活動と教育実習の相乗効果が生まれ、改めて基礎体験活動の意味が明確になってきたことが大きいように思われる。

このことは学生の育ちや学びを考えた時に、基礎体験領域のカリキュラム全体における実習semesterによる体験の位置づけはどうか示唆しているように思える。

(2) 1・2評価のままか、あるいは評価が下がった学生について

1) 対象学生

平成18年2月も12月もどちらも、有意義感について、1・2評価か、評価が下がった学生を抽出した。

対象学生は6名で、専攻は健康・スポーツ教育3名、自然環境教育1名、人間生活環境教育1名、心理・発達臨床1名である。

2) 体験時間の観点から

表4 基礎体験活動時間数（抽出学生および04生全体）

6人の平均活動時間（時間）	04生全体の平均活動時間（時間）
348	483.3

表5 実習semesterの活動時間数（抽出学生および04生全体）

実習semester活動時間	人数（人）	6人平均活動時間（時間）	04生平均活動時間（時間）
50時間以下	5	26.5	42.7
50時間～100時間	0		
100時間以上	1		

この6名の基礎体験活動時間数も実習semesterの活動時間数も、全体に比べてかなり低い時間数になっている。

3) 「基礎体験活動のどう捉えているのか」及び「有意義な体験およびその理由」アンケートの記述から（資料4）

この6名の基礎体験に対する有意義感についての記述を見ると、平成18年2月も12月も基礎体験活動そのものに対して、やらされ感・強制感を感じている。

だが、アンケート項目の有意義だった体験に関する回答では、学生自身体験から学んだり、体験することの意義を感じたりしている。

こういったことをみると、入学する前にはこのカリキュラムは示されていなかったことや、体験に対する根本的な心理面、考えを変えるような体験に出会わなかった（真剣に取り組まなかった）、時間がなかったなどいろいろな理由が考えられる。

こういった学生への指導は、基本的には講座が主体で行っている。そして特に体験時間が不足している学生には、専攻との連携をとり、教育支援センターとして、学生本人の活動意欲をかりたてるような体験活動を提示したり、活動からの学びを読み取り学生に返していくことをいねいに繰り返していったりすることが、一つの手立てだと考えている。

基礎体験学修に対してマイナスのイメージを持つ学生も、教育学部としての4年間の学びの方向を示すことで、確かで豊かな学びを保証することができるように思われる。

## 3. アンケート集計・分析をして

以上のように、どちらかといえば基礎体験学修に否定的であった学生も、様々な理由で肯定的な考えに変わり、意欲的に活動に取り組むようになった学生も多い。さらに、今回は詳しく述べなかったが、1年生のころからは多様な体験を積み上げていくことが、3年生以上でのより大きな学びを保証していると推察できる。

これからも事前事後指導（だんだん塾）やアンケートなどを通して、学生の学びの姿を把握していくことが、基礎体験学修における学生の学びの位置づけや学びの在り方などを考えていくためには肝要であると思われる。

最後に、現在の教育現場に向かう学生に、大学としてどんな力を保証していこうとしているのかを考えたとき、この基礎体験学修の意義や存在価値がますます高まっていくことになると考える。そのことを今回のアンケート結果が示唆している。

## 資料1

基礎体験活動に関するアンケート（200〇年〇月〇日△△セミナー）

学生番号 男・女 名前

主専攻（ ） 副専攻（ ）

\* 3年生前期（4月から9月まで）の活動を振り返って、このアンケートに答えて下さい。

I みなさんの基礎体験活動への取り組み状況について、当てはまる内容を1つ選び、番号に○をしましょう。

- ① ほとんど取り組んでいない
- ② あまり取り組んでいるとはいえない
- ③ どちらともいえない
- ④ まあまあ取り組んでいると思う
- ⑤ 進んで取り組んでいると思う

●その理由

II あなたは基礎体験活動をどのように感じていますか。当てはまる内容を1つ選び、番号に○をつけましょう。

- ① 有意義だと思わない
- ② あまり有意義だと思わない
- ③ よく分からない
- ④ 有意義だと思う
- ⑤ とても有意義だと思う

●その理由

Ⅲ 次の項目について振り返り、当てはまる番号に○をしましょう。

(1) 基礎体験活動を通して、学んだこと

① 子ども理解について

設 問	とてでもよき	よくでよき	どちらでもない	あまりなかった	全くできなかった
①子ども一人ひとりに目配りができ、積極的にかかわること	5	4	3	2	1
②子どもの発達段階の違いに応じてかわること	5	4	3	2	1
③子どものしぐさや表情、言葉などから気持ちや感情を理解し行動すること	5	4	3	2	1

★コメント

.....

.....

.....

② 人間関係力について

④地域の人たちと積極的にかかわりを持つこと	5	4	3	2	1
⑤地域の人たちと協力して活動すること	5	4	3	2	1
⑥自分の考えを伝えたり、相手の立場に立って聞こうとしたりすること	5	4	3	2	1

★コメント

.....

.....

.....

③ 社会の一員としての自覚について

⑦場に応じた挨拶や言葉遣い、服装をすること	5	4	3	2	1
⑧社会人としての自覚や責任を持って行動すること	5	4	3	2	1

★コメント

.....

.....

.....

④ 企画力について

⑨人や環境、時間などの条件を考慮しながら、自分の考えやアイデアを積極的に出し企画すること	5	4	3	2	1
⑩状況に応じて活動内容を修正しながら運営すること	5	4	3	2	1

★コメント

.....

.....

.....

## ⑤ 指導力について

⑪個人や集団に対して、活動のねらいに応じた指示や助言をすること	5	4	3	2	1
⑫状況に応じて意見をまとめたり、リーダーシップを発揮したりすること	5	4	3	2	1

★コメント

## ⑥ 学校理解について

⑬学校の特色などを理解すること	5	4	3	2	1
⑭教師の仕事などを理解すること	5	4	3	2	1

★コメント

## (2) 参加した基礎体験活動の内容

設 問	とても よく参 加した	よく参 加した	どちら ともい えない	あま り参 加し な か た	全 く参 加 し な か た
①授業や学校行事の補助、教員の仕事の補助	5	4	3	2	1
②休日、放課後の学習支援	5	4	3	2	1
③放課後の学童保育	5	4	3	2	1
④保育の補助	5	4	3	2	1
⑤スポーツ指導	5	4	3	2	1
⑥キャンプ等の体験活動	5	4	3	2	1
⑦指導者養成講座	5	4	3	2	1
⑧地域活動の計画への参加	5	4	3	2	1
⑨地域行事の活動の補助	5	4	3	2	1
⑩自分自身の体験を豊かにする活動	5	4	3	2	1

## (3) 体験活動を選ぶときの自己基準

設 問	と て も 考 え る	ま あ ま あ 考 え る	ど ち ら も い え な い	あ ま り 考 え な い	全 く 考 え な い
①授業や部活、アルバイト等の日程	5	4	3	2	1
②活動時間数	5	4	3	2	1
③自宅や下宿からの距離や交通手段	5	4	3	2	1
④交通費など	5	4	3	2	1
⑤活動内容	5	4	3	2	1
⑥友達の参加状況	5	4	3	2	1
⑦先輩や友達からの誘い	5	4	3	2	1
⑧体調や気分	5	4	3	2	1

(4) 基礎体験活動に参加してみて疑問に感じたことや困ったこと

設 問	とてもあ よくなる	よくあ る	どちらい ともい えない	あまり ない	全くな い
①募集用紙の内容と実際の活動内容の違い	5	4	3	2	1
②募集用紙の記載時間と実際の活動時間の違い	5	4	3	2	1
③交通費など(宿泊費、参加費も含む)	5	4	3	2	1
④事業者とのコミュニケーション	5	4	3	2	1
⑤他の体験者とのコミュニケーション	5	4	3	2	1
⑥子どもとのコミュニケーション	5	4	3	2	1
⑦活動場所までの距離や交通手段	5	4	3	2	1
⑧セクハラや不平等の扱い	5	4	3	2	1
⑨自分自身の体力や健康面など	5	4	3	2	1

IV これまでに行った基礎体験活動の中で、自分にとって特に有意義だった(である)活動にはどんな活動がありますか。主な活動とその理由を挙げましょう。(3つ以内)

◎活動名 ( )

◎活動名 ( )

◎活動名 ( )

資料2

- 4・5 評価となった対象学生(26名)が有意義感について答えたその理由と自己評価
- 1 (有意義だと思わない) 2 (あまり有意義だと思わない) 3 (まあまあ)  
 4 (有意義だと思う) 5 (とても有意義だと思う)

学生	実施月	自己評価	その理由
S1	H18.2	3	大学の講義では得られない知識や技術が得られるから
	H19.12	5	基礎体験活動というカリキュラムがなかったら絶対得られないままで、大学生生活を終わっていたから
S2	H18.2	3	まだ現時点では有意義だと思うこともどうなんだろうと思うことも、どちらもあるから
	H19.12	5	自分の足で活動場所や場を積極的に探し、社会やそれぞれの学校に出て学ぶことはとてもたくさんあるから
S3	H18.2	2	内容は充実しているが1,000時間として単位制にしているので結局強制になっているのではと思う
	H19.12	4	教育実習だけでは体験できないことを外の現場のこのことを知ることができたから
S4	H18.2	2	するのはいいが、するためのカリキュラムがメチャクチャで何をどうすればいいのかわからない。またこれすることでの将来性に信頼が来ない
	H19.12	4	体で覚えていくというのは身につく。そこで得られるものがよかれ悪しかれ次に生かされるから
S5	H18.2	3	活動で子どもや周りの人と接することはとても自分のためになると思うが、時間認定されることで、活動を強制されている感じがする
	H19.12	5	公立小では、附属小と違った学校の雰囲気や子どもの様子に出会い、コミュニケーション力がついたと思うし、体験を重ねることで自分の考えも変わったから
S6	H18.2	3	いい経験になると思いますが、時間を稼ぐために仕方なくやるという考えが全くないとはいえません
	H19.12	5	大学の講義や実習だけでは分からないような子どもの面を見ることができから
S7	H18.2	3	子どものかかわりを通して学ぶことが多いから
	H19.12	5	教育実習だけでは分からないことを多く学ぶことが出来るし、学校以外の体験では社会勉強にもなり様々な力がつくと思うため
S8	H18.2	2	教員にならない人には必要ないと思う
	H19.12	4	大学生生活は外に出てコミュニケーションをとるような機会は少なく、社会に出たときのギャップがあるから
S9	H18.2	2	忙しすぎるので負担になっている
	H19.12	5	最初は仕方なくしていた部分があるけれど、いまなってみると、様々な活動をしてよかったと思うから
S10	H18.2	3	積極的に取り組める人はいいけれど、ただ時間数を稼ぐためにだけやっている人もいると思うから
	H19.12	5	活動の案内がなければ、知れないような活動もあるので
S11	H18.2	1	やらされている活動に価値はない
	H19.12	4	いろいろな体験をしたり様々な人と関わることができるから
S12	H18.2	2	やらなきゃ卒業できないからと感じているし、そう思って仕方なくやっている部分が多いから
	H19.12	4	就職の際の面接時に大学でがんばったことなどで言えそうだから
S13	H18.2	2	時間数が多すぎ
	H19.12	4	いろいろな人と関わったりいろいろなことを学べたから
S14	H18.2	2	実際にやっている活動はすばらしいもので続けてよいが、大学側にやらされているやるべきではなく、自分のためにやる活動を卒業要件にするのはおかしいと思う
	H19.12	4	自分の出来ること、出来ないこと、課題等を見つけたことが出来たから
S15	H18.2	2	行くものをあらかじめ決め決めるべき。活動の種類に偏りがある。
	H19.12	4	体験を通して他人に対する接し方が変わった
S16	H18.2	1	みんなやらされているように感じます
	H19.12	3	有意義なような、そうでないような。
S17	H18.2	2	混乱してしまうような説明や掲示が遅いので、ぎりぎり間に合う感じでやっているから
	H19.12	4	ただ学校で実習するだけでは学ぶことが出来ないこともあるし、他から得たことが教育現場で必ず生きてくるから
S18	H18.2	2	自分の時間の中に当てはまりにくい
	H19.12	4	いろんな体験ができ、仲間も増えた
S19	H18.2	2	金銭的な出費が多い
	H19.12	4	自己を磨くことの出来るすばらしいものであると思うが、部活動を行っているものに対しては酷になるときもある
S20	H18.2	2	予定があまりあわないので、やりたいことができない
	H19.12	4	他大学では体験できない人との出会いや指導力の向上につながる大事なことを経験できるから
S21	H18.2	2	それに追われてもっと他にやるべきこと、やりたいことがあるのに一定時間がないと実習にいけないとか、それはおかしいと思うし、やらないといけな思っってやっても意味がないから。大体クリアしなければならぬ時間が多すぎて、今負担になっていて仕方がないのが現状です
	H19.12	4	すごく充実した日々になるし今しか出来ないことをやっているという実感がすごくあるからです。ただ、実際に学校現場に行き、支援できる場がもっと前からあればよかったと思います。
S22	H18.2	1	無意味なものが多い。無理やりやらされることに意味はないと思う。講演会の設営をして1000時に入る意味が分からない
	H19.12	3	自分にとって有意義なものとしてでないものがあり判断できない
S23	H18.2	2	義務という雰囲気が否めない
	H19.12	5	初めこそ否定的だったものの、自分で楽しむことや学ぼうとする意志があればとても有意義だと思う
S24	H18.2	2	よいと思うものもあるが、余計なものもあると思う
	H19.12	4	私のように自ら進んで行動できない人にとって、ある程度形があると取り組みやすく、またやってみていい経験だったと思えるからです
S25	H18.2	2	時間がない
	H19.12	4	いろいろな学年の子供にかかわる機会があるから
S26	H18.2	2	本当によく分かりません
	H19.12	4	基礎体験活動でなければ学べなかったことがいっぱいあるから

資料 3

● 4・5 評価となった対象学生 (26名) が「有意義である」と挙げた活動とその理由 ( )

○通常の基礎体験に関連した記述

<p>附属小学校学習支援ボランティア (授業の雰囲気や体験したり、子ども達といっしょに遊んだりすることが出来た) 大山秋祭り (スタッフの方と夜遅くまで話したり当日も充実した活動ができた) (初等)</p>
<p>松江養護学校学童クラブ (継続的に行くことでその子の成長が見れたり抱える問題を把握できることに加え、普段の生活ではあまりかかわりのない障害を持った子どもといっしょにすごせるので) (初等)</p>
<p>ピピットひろば (初めて企画運営を行い、企画力と人間関係力を非常に身につけることが出来たなど感じます。私自身すごく人見知りをするタイプで、他人に自分を見せるまで時間がかかりますが、自分から積極的に関わったりすることが出来るようになって来ました。) (初等)</p>
<p>ウィークエンドスクールチューターなど (個人によって対応を変えたり、やる気が出ない子を励ましたり、教育実習では出来ない体験ができるから) (国語)</p>
<p>松江養護学校 (特別支援の子たちに関わることができたから) (社会)</p>
<p>島根少年サッカースクール (楽しかったから。子どもに会いに行くのが楽しみになったから) (社会)</p>
<p>ねお (子ども達が個性的。関わっている中で自主的に動かさなければと思うので) 松江養護学校 (一人ひとりにあわせた教育を生で見れるので) (英語)</p>
<p>持田FCコーチ (持田小学校という特定のクラブ (部活動) なので、地域の人とそのクラブが密接に関わっているの、それを見ることで積極的に関わることができたから。) (健康)</p>
<p>船上山スキルアップセミナー (色いろんなレクチャーを通して自分が指導者に立ったときのスキルがついたと考えます) (美術)</p>
<p>歩くスキーフェスティバル (参加者だけでなく高校生や社会人の方々とボランティア同士の交流を深めることが出来た) (美術)</p>

○実習セメスターに関連した記述

<p>河崎小学校学習支援 (本実習を挟み、計1ヶ月間行かせてもらいましたが、公立小学校がどのようなものであるか、学校現場を肌で感じる事が出来たし、地域とのつながりの大切さにも触れ、また子どもとのかかわり方についても考えさせられたし、成長させられたから) (初等)</p>
<p>海士小学校学習支援活動 (自閉症の子どものいるクラスの担当として、2週間過ごしたが、その経験により島根小や実習に行ったときに、特別支援を必要とする子どもとのかかわり方に抵抗がなくなったと思う。また、2週間同じメンバーと生活をともにしたことで他の人と協力することの大切さを学ぶことができた。) 島根小基礎学力アップ事業 (実習以外で初めての公立小学校での活動だったが、全学年のクラスに入って学習支援をしたので、様々な学年の子どもの違いやコミュニケーションのとり方、指導の仕方など多くのことを学ぶことができた。また、こ</p>
<p>島根小基礎学力アップ事業 (授業や学校行事の補助として、クラスに入り、子ども達や先生方との交流を深める中で子どもや学校、指導の仕方などについて学ぶことが出来たから) (初等)</p>
<p>大山通学合宿 (学校での時間以外の子ども達の生活に触れることが出来たから) (初等)</p>
<p>複式学級の状況や田舎にある学校の学校経営について、学校の先生たちから直接聞いたこと。また、授業の実践 (国語)</p>
<p>神西小学校支援活動 (公立小の子どもとのかかわり、一公立小の実態に触れることができた。子ども達と積極的にかかわり、コミュニケーションをとることが出来たし、それぞれの子どものあった支援や声かけを考えることが出来た。) (特別支援)</p>
<p>中島小学校支援活動 (初めて小学生と関わった活動で不安ばかりあったけれど、みんなやさしくてすごく楽しくて学校を理解できた気がするから) (社会)</p>
<p>加茂小学校支援活動 (自分自身が楽しめたし、小学生と多く関わってよかったから。来年もう一度行ってみたいと思う) (社会)</p>
<p>松江養護学校中等部ブール指導 (障害を持つ生徒への指導や声かけ、配慮を要することなど普段なかなか出来ない場面での活動だったから) (健康)</p>

○学生自身の専攻専門性に関連した記述

<p>ステップアップ水曜日 (本当に分かっていない子どものどこが分からないのかを真剣に考えたこと) 仁摩中学校選択数学 (数学の楽しさを伝えるのはどうするかということを実践していきながら学んだ) (数学)</p>
<p>ウィークエンドスクール島大 (企画力、運営力、子どものかかわりなど全ての要素を含む活動だったから) ボランティア通訳体験 (専門科目に関する活動であったし、何より自分の未熟さを痛感したから) わくわく土日 (子どもと関わるのが本当に楽しかったから) (英語)</p>
<p>城北子どもひろば (英語を教える際にどんなことが大切か、必要か、また子ども達がどんなことをすれば喜んでくれる) (英語)</p>
<p>ボランティア通訳体験 (英語を生かした活動が出来てよかったのと、日本文化について自分は外国人の人に説明できるほど知っていないのだなあと感じた。初めて会った外国人の人たちだったが、気さくな人たちが多くて楽しかった。ウィークエンドスクールin島大 (小学生に英語を教えたがこれは教育実習の前であったことで、実習をするにあたってとても役に立ったと思う。小学生の英語の実態が少しではあるが分かってよかった。) みんなの花を咲かせよう大運動会 (障害のある子ども達と普段関わるときがないが、これに参加して、いっしょに活動して、戸</p>
<p>出雲市ウィークエンドスクール (子どもがどのようなものなのか、また、どのように学校を思っているのかなど気持ちの面で理解することができた) 島大生のチャレンジ教室 (一斉授業でどのように教えればよいかよい勉強になった) (自然環境)</p>
<p>講座で広島に行ったこと (平和記念館など印象に残る場所に数多く行ったこと) (社会)</p>

松江市放課後学習チューター（中学3年生とかかわり、勉強中心にたくさんのコミュニケーションをとることができた）  
 子育て支援センターあいあい（子どもを育てることをセンターに行くたびに体感している。時には保護者の方とお話をする機会もあるので、生の声を聞けるしこどもとの（幼児）接し方も学ぶことも出来る。（心理臨床）  
 玉造厚生年金病院での活動（講座）（今も継続して行っているが、「言葉を使って口で話すこと」以外の瞬きでのコミュニケーションを通して、患者さんとコミュニケーションをとり、よい関係を築くことができていると感じる。また、たくさんのお話から自分のことや社会のことなどたくさんのことを考える機会を持つことが出来ている。）（特別支援）  
 サタデースクール（自分たちで子どもにあった教材を作成・使用し、学生同士や塾長、学校の先生方との打ち合わせもしており、とても充実した活動だと感じるから）（初等）

## ○その他

福祉施設介護等体験（1週間はとても長く感じました。しかし、福祉の状況を自分の目で見ることができました。高齢者との接する機会があり、充実していた）（社会）

## 資料 4

## ●学生の理由

1・2 評価とした対象学生（6名）の有意義感について答えたその理由と自己評価および有意義とした活動

実施月	自己評価	その理由
H18. 2	2	無回答
H18. 12	2	「やらされている」感をどうしてもぬぐいとることができない
*有意義だった活動		
子どもキャンプ（企画の段階から関わることができたから。また看護師さんなど、いろんな職の大人の方との触れ合うので、自分自身実になることが多かった。）		
H18. 2	1	やらされている感じがまだある。他にやりたいこと（バイト、旅行など）があるのに、1,000時間によってつぶされてしまうのがいやだ
H18. 12	2	無理やりやらされている感があるから
*有意義だった活動		
野遊びの達人養成講座（人数も少なかったし、本当に楽しくてやらされている感がなかった。）歩くスキーフェスティバル（交通費などの費用も負担してもらえ、自分の負担が少なかった。様々な世代の人との交流が出来た。）		
H18. 2	1	無駄だと思うから
H18. 12	1	魅力を感じないから
*有意義だった活動		
保育実習（赤ちゃんと関わることが出来、これからの経験になったから）		
H18. 2	1	経験にはなると思うが、その時間をもっと別の有効なものに使えと思っています
H18. 12	2	もっと違うことでも力をつけることが出来ると思うから
*有意義だった活動		
出雲陸上教室で自分の専門的な知識、技術と指導の際の声かけの工夫、子どもの上手な動かし方、地域の方との協力など幅広く力をつけた。		
H18. 2	2	子どもとかかわりを強制するのはあまりよくないと思います
H18. 12	1	やることはいいことだけれど、義務にする必要はない
*有意義だった活動		
松笠小学校学習支援（複式について詳しく学べた）		
H18. 2	5	子どもたちと触れ合うことができるから
H18. 12	3	そこまでたくさん体験をしていないから
*有意義だった活動		
子ども公開講座（自分の専門種目のテニスでもあり、その指導力をつけるためにとても役に立ったと思う）		